

議会だより

No.118
2022.11.1 発行



表紙の作品

第3回観光協会観光フォト
グランプリ議会だより賞
題名「晩秋の鎌北湖」

秋も盛りを過ぎ、残り紅葉に雨が降り
水滴が朝日に照らされて輝いていました。

撮影者：大谷木春男
撮影地：鎌北湖



2 P ~ 3 P 令和3年度決算・主な事業

4 P ~ 5 P 決算の主な質疑・討論

6 P ~ 7 P 9月議会ではこんなことが決まりました

8 P ~ 15P 一般質問 14人が登壇



MOROYAMA ASSEMBLY NEWS

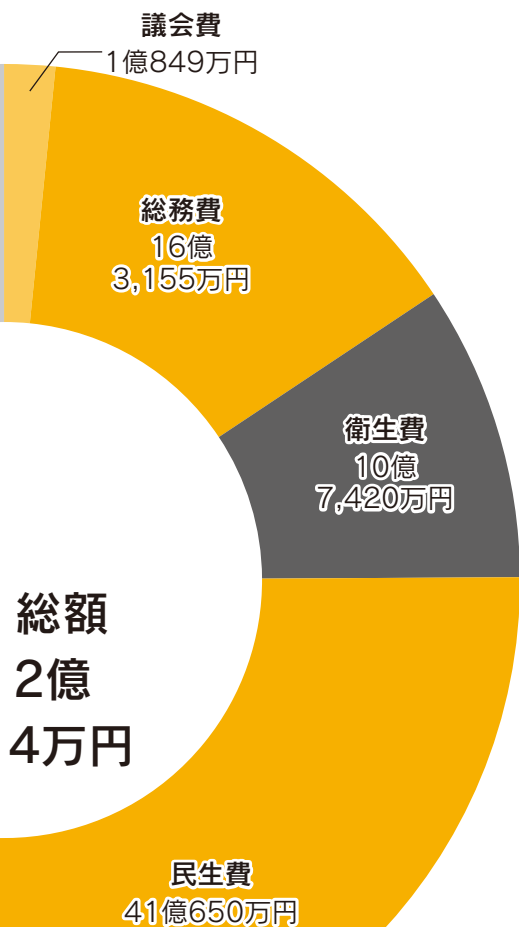
発行／毛呂山町議会 編集／毛呂山町議会だより編集委員会
〒350 - 0493 埼玉県入間郡毛呂山町中央2丁目1番地
☎049-295-2112

バックナンバーはこちらです→



○議会だよりは議員の自主編集により発行しています。

令和3年度決算 貴重な税の主な使い道

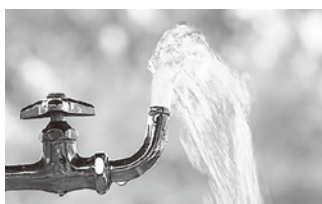


議会費

議会委員会室音響設備更新事業 240万円等

総務費

住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金 3億8,399万円
水道基本料金無償化事業 6,798万円
役場窓口キャッシュレス化事業 256万円等



オンラインで水道使用の
開始・中止手続きが可能



キャッシュレスで
利便性の向上を

民生・衛生費

子育て世帯への臨時特別給付金 3億7,113万円
保健センター空調設備改善工事 3,282万円
ワクチン接種事業 1億3,730万円等



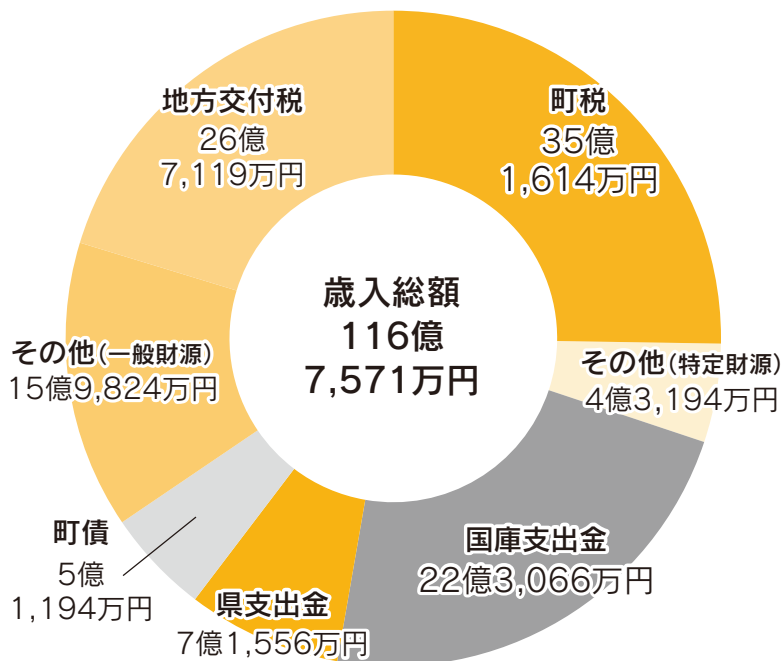
決算のポイント

令和3年度決算は令和2年度と同様に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け感染症対策にかかわる臨時交付金が12億1,755万円で歳入決算の10.4%を占めています。

一般会計の歳入の根幹である町税は新型コロナウイルス感染症の影響もあり昨年度に比べ364万円の減となっていますが、収納率は上昇しております。

財政指数については**経常収支比率**[※]は88.2%と前年度対比△7.3ポイント改善されました。

一方で、**実質公債比率**[※]は8.6%と前年度対比0.2ポイント上昇しており依然として厳しい財政状況にあることが見えてきます。



※経常収支比率とは？

扶助費(社会保障制度の一環として実施する給付等に係る経費)など毎年かかる固定費の割合。数値が低いほど政策的に使えるお金が多いこととなります。

※実質公債比率とは？

一般会計が負担する借金返済費用の割合。数値が高いほど他の事業にあてる財源を圧迫することとなります。

9月 定例会

令和4年9月定例会は9月1日から20日までの20日間の会期で開催されました。
今定例会に提案された案件は、条例の一部改正2件、規約の変更1件、補正予算4件、決算認定6件、利益剰余金の処分1件、町道の路線の廃止1件、人事1件、報告2件が上程され慎重な審議が行われました。一般質問は全議員が登壇し、活発な質問が展開されました。

消防費

自宅療養者支援体制事業 19万円



不安解消のために支給された食料品

教育費

小中学校サポート消毒清掃業務委託料 1,447万円
小中一貫教育環境整備橋梁工事 761万円
川角小学校体育館屋根改修工事 2,052万円
泉野小学校体育館屋根改修工事 1,619万円等



児童生徒の感染防止のために



小中一貫教育のかけ橋

商工費

がんばるお店(事業者)応援金事業 1,726万円
スマート商店創造事業 414万円
商工会シールラリー補助金 120万円等



買物は町内事業者で



締切りは11月30日

災害復旧費
1,325万円

諸支出金
9億4,007万円

公債費
10億3,531万円

教育費
8億7,030万円

消防費
6億980万円

土木費
6億6,151万円
商工費
6,233万円

農林水産業費
1億1,745万円

労働費
103万円

歳出
11
3,18

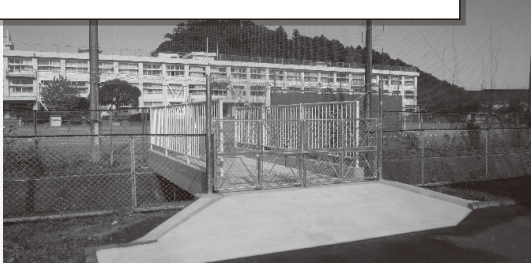
※グラフや表は万円未満を切り捨てのため総額が一致しないことがあります。

特別会計別の決算		歳入	歳出	歳入歳出差引額
国民健康保険特別会計		43億7,583万円	42億3,598万円	1億3,985万円
水道事業会計	収益的収支	8億 256万円	7億 809万円	9,447万円
	資本的収支	1億6,820万円	4億 404万円	▲2億3,583万円
農業集落排水事業特別会計		3,323万円	2,846万円	476万円
介護保険特別会計		26億1,495万円	25億1,266万円	1億 229万円
後期高齢者医療特別会計		4億6,594万円	4億5,103万円	1,491万円

予算決算 常任委員会

令和3年度一般会計及び特別会計決算については予算決算常任委員会に付託し、4日間にわたり慎重審議しました。審議は町政全般多岐にわたり、数多くの質疑がなされました。その中から抜粋してお知らせします。

小中一貫教育環境整備橋梁工事 761万5,300円



小中一貫教育が、安全かつ円滑に実施できるよう、宮前都市下水路上部に橋梁を整備。

Q 小中一貫教育の整備事業として毛呂小と毛呂中の中に橋ができた。現在どういう役目を果たしているのか。

A 教員の交流として小中一貫教育合同研修会や、乗り入れ授業を行っている。また、児童生徒の交流ということで一斉下校や朝マラソン、陸上教室、音楽交流、クラブ交流などさまざまな児童生徒の交流が行われている。

Q 親と一緒に子育て応援事業補助金は、平成29年度から令和3年度までに計27件650万円の支出をしている。定住促進が大きな目的だと思うが、この5年間の成果は。

A この補助金の対象となる世帯というのは、親が毛呂山町に住んでいなければならないという条件がある。実績として例年定住人口は増えているので、一定の効果があつたものと考えている。

親と一緒に子育て応援事業補助金 150万円(7件)



町内に住む親世帯と同居や近居するために町外から転入する子育て世帯に、同居のための住宅リフォームなどの費用の一部を補助。

キャッシュレス決済導入事業 275万3,030円



新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点及び利用者の利便性向上のため、税務課・住民課窓口クレジットカードや電子マネー等の支払いに対応したセミセルフレジを設置。

Q セミセルフ型レジを導入したが、効果はどうか。

A レジのキャッシュレス決済は令和4年1月から実際に稼働を始めた。当初はあまり件数の伸びはなかったが、広報及び窓口での掲示PRを行い、令和4年度に入ってから令和3年度の3か月間との比較で数倍程度に伸びている状況。

Q もろバスについて、数年前に比べ年間の乗車人数がかなり減少し回復の兆しがないが、見直して改善点があるのではないか。

A 昨年度、中間見直しは10月1日から実施した。使用率は令和2年度と同じ時期である10月から3月までを比較すると90.3%、9.7ポイント減になっている。コロナ禍の影響は、否めないと分析している。今後の予定として令和6年度に5年スパンの大きな見直しをする予定。一人でも多くの方がもろバスを活用してもらえようような計画を策定していく。

町内循環バス運行経費保償金
2,748万4,062円



高齢者等の日常生活支援や公共施設の利便性向上のため、町内を循環するバスを運行。

防犯カメラ設置工事
98万7,800円



犯罪のない環境づくりと安全・安心な住環境を推進するため、町内に防犯カメラを設置。

Q 防犯カメラ設置工事では、どこに何台設置されたのか。

A 令和3年度に防犯カメラを2台設置した。場所については、1つ目は武州長瀬駅のヤオコー長瀬店前の電柱。2つ目は、東毛呂駅のいなげや毛呂店の北側の電柱。

Q 今後も防犯カメラは設置されるのか。

A 1年間に6台の設置を3年間続ける計画。3年目を迎えたら、犯罪の抑止ができたかどうか、町内の状況を見ながら検討委員会を再度設けたいと考えている。

一般会計討論 — 私はこちら考える —

反対 長瀬 衛 議員

大型商業施設開発許可の違法性、一步も進まない川角駅周辺整備事業、県道川越坂戸毛呂山線整備への取組み姿勢、小学校廃校計画並びに日化踏切拡幅計画等、多くの事業が塩漬けであり、政策的事業の取組みや進め方に町民の立場で反対する。町長の政治姿勢並びに地方自治の原点である「民意への対処」に強く反省を求める。

賛成 澤田 巖 議員

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により激動の1年だった。経済健全化の状況について各指標も国の示す基準内にあり、健全な財政の範囲内にあると言え評価出来る。町民の意見を聴き、分析と判断、決断するスピードを持って対応を希望する。ワクチン集団接種事業など引き続き円滑な実施等毛呂山町の益々の発展に尽力を願う。

反対 岡野 勉 議員

日本の国力は、劇的に衰えている。約4割が非正規労働者、ジェンダーギャップは世界120位だ。対する町の施策はスマートシティ、ふるさと納税。学校統廃合による小学校の廃校は子育て支援とは真逆だ。道路法の遵守、住民説明に基づく住民参画の道路行政を。葛川の水質改善のため、影響する企業対策を即刻・要望する。



令和4年度補正予算ピックアップ

※万円未満切り捨て

補正予算約5億6千万円追加!!

原油価格・物価の高騰により公共施設の電気料金増加!

区分	補正前	補正額	補正後	
一般会計	99億9,426万円	5億6,640万円	1,05億6,066万円	
特別会計	国民健康保険	39億6,666万円	3,871万円	40億 537万円
	農業集落排水	3,815万円	49万円	3,865万円
	介護保険	28億8,701万円	1億2,843万円	30億1,544万円

転出・転入手続き支援サービス及びかんたん窓口事業導入委託料 522万円

マイナンバーカードの推奨
転出・転入手続きのワンストップ化(手続きの簡素化)を図る

総合公園遊具等設置工事 3,533万円

コロナ臨時交付金を活用!
コロナ禍において外で元気に遊んでもらうために総合公園遊具の老朽化に伴う施設を交換

光熱水費 6,045万円

原油価格・物価高騰に伴う各施設の電気料金の増加分

コロナワクチン対策 1億2,855万円

オミクロン株対応ワクチン接種に対する委託料

葛川8号橋仮設工事 314万円

令和4年7月12日に発生した豪雨による葛川8号橋破損に伴う仮設工事



老朽化が進む遊具



オミクロン株対応ワクチン接種



破損した葛川8号橋



●議案の審議結果(9月定例会)

○は賛成 ×は反対 討は討論 欠は欠席 議は議長

議案		議員名	神山和之	下田泰章	平野隆	澤田巖	牧瀬明	佐藤秀樹	荒木かおる	千葉三津子	村田忠次郎	岡野勉	高橋達夫	長瀬衛	堀江快治	小峰明雄	審議結果
決算認定	一般会計		○	○	○	○討	×	○	○	○	○	×	○	×	○	議	認定
	国保特別会計、介護特別会計、後期高齢者医療特別会計		○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	議	認定
	水道事業会計、集落排水特別会計		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	認定
剰余金	水道事業会計未処分利益剰余金の処分		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	原案可決
一部改正	職員の育児休業等に関する条例		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	議	原案可決
	ひとり親家庭等の医療費の支給に関する条例		○	○	○	○	○	○	○討	○	○	○	○	○	欠	議	原案可決
補正予算	一般会計(第4号)、国保特別会計(第1号)、集落排水特別会計(第1号)、介護特別会計(第1号)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	議	原案可決
規約変更	埼玉西部環境保全組合の規約		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	議	原案可決
人事	教育委員会委員の任命		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	同意
	町道の路線の廃止		○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	議	原案可決

一般質問

町政を問う! ~14名が登壇~

- 不登校の現状と課題
- 現在の企業誘致と毛呂山町の将来像
- もろやま創成舎の現状と今後の展開

堀江 快治

- 高齢化や災害等に負けない安心・安全な地域づくり
- 道路行政〔都市計画道路整備の現状と課題及び道路廃止〕

長瀬 衛

- 町の山林と森林環境譲与税の活用
- 立地適正化計画と学校統廃合

下田 泰章

- 鎌倉街道上道が国指定史跡に。今後どう保存し、活用するのか
- 公園や緑地は、少子化対策や高齢者対策のバロメーター

村田忠次郎

- 難聴者に支援を
- 障害者手帳の今後の在り方

千葉三津子

- 町の戦略
- 町の防災
- 町内の道路
- 町の医療体制

平野 隆

- こども医療費助成の対象年齢を18歳までに拡大されたらいかがでしょうか

牧瀬 明

- 毛呂山町における政策

佐藤 秀樹

- 本町におけるDX推進計画
- 豪雨災害の被害状況と今後の対策
- 認知症の方を抱えるご家族へのサポート

荒木かおる

- 川角駅周辺整備事業の進捗状況
- 町が訴えられている裁判

高橋 達夫

- 度重なる集中豪雨災害による本町の浸水被害対策と道路冠水対策並びに改修等の状況

神山 和之

- 自転車のヘルメット着用率向上

澤田 巖

- 毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会
- 県・町の葛川改修工事計画と早期実現を

岡野 勉

- 地域防災
- 教育・子育て環境の充実
- 障害者支援の充実

小峰 明雄

※一般質問の本文は、主な質問と答弁を本人が編集しています。

不登校対策のために町全体で子ども達を守るべき！

図 学校・地域・家庭の連携を強化していく



堀江 快治

事実。児童・生徒や保護者とのつながりを大切にしていく。

問 本町で不登校が増加している要因を伺う。

答 「無気力・不安」「学業の不振」「友人関係」「家庭に係る問題」等が要因。

問 本町の不登校児童・生徒の割合は全国平均と比較して大幅に多いが、教育行政の責任者である教育長の見解を伺う。

答 不登校が増加しているのは、義務教育期間は基礎学力の習得や人間力の形成等非常に大切な期間である。早急に改善と対策を図るべき。

問 教育センターを中心に不登校の児童・生徒が学校復帰できる体制を強化する。

答 現在の企業誘致と町の将来像との整合性はとれているのか。

問 第五次総合振興計画に沿って、町の将来像の具現化を目指していく。

答 町内の中小事業者についてはどのように考えているのか。

問 地域経済発展のためにも町内事業者の育成と発展は非常に重要と考えている。

答 進出企業の操業による町への効果は。

問 第一に税収増と雇用創出を期待している。

答 創成舎の現状と今後の展望は。

問 ふるさと納税の強化とビジネスコンテスタを実施。

答 今後再生可能エネルギーの拡大と自走体制を整えていく。

問 ふるさと納税は結果が求められている。今年度の見込みは。

答 最低でも当初予算額はクリアできるように努力する。

高齢化等により地域の様子が変化している

図 担い手を育て、地域力強化を図りたい



長瀬 衛

題と対応はあるのか。

問 担い手不足等の課題やコロナ禍がマイナス要因となっており、地域力強化を進める。

答 各地区の自主防災組織が、自治会役員を横滑りで名簿に載せ、単に補助金の為の組織となっていないか。また、町が求めている活動内容になっているか。

問 自治会と兼ねている地区が多く、防災リーダーのいる地区

は活動が向上しており、実績に大きな差がある。活発な組織の活動を紹介する連絡会議を検討している。町が自主防災組織に求めるのは、災害時の情報収集と安否確認である。

問 大災害等の非常事態時に町本部と各自治会との体系的連携手段についての議論がない。具体的に検討すべきだ。

答 各地区との情報伝達体系はない。有事の際に連携できるように考えたい。

問 7月の豪雨で西大久保地区はこれまでにない水害だった。転倒堰は町が管理すべきでは。

答 堰の管理は耕作者が行っていた。

問 45年前に都市計画決定され、3年前に要望活動継続が決まっている川越坂戸毛呂山線は町最大課題であり、町長の選挙公約である。

答 選挙公約したが、県に主導権があり、新川越線に整備効果があると言っており、両方ではなく、優先すべきと申し上げている。

「地域は地域で守る」地区防災訓練（毛呂山台）



「地域は地域で守る」地区防災訓練（毛呂山台）



全ての児童・生徒が楽しい学校生活が送れるように

目的税の使い道。県補助金運用見直しも疑問

県への要望を行っていききたい



下田 泰章

問 昨年度途中に県より水源地域の森づくり事業と里山平地林整備事業の補助金運用が森林環境譲与税のおおむね8割を森林整備に活用し、不足額を県が補

答 助するかたちに見直された。町は昨年度、森林環境譲与税を林道整備事業に充当したため2事業の補助対象から外れ791万6千円の補助金が交付されなかった。町の森林環境譲与税の歳入額は562万3千円であり県の補助金よりも少ない。本末転倒の事態である。県へ町の実情や要望を行っているのか。

問 日本は高度成長期以降、外国産木材の需要が高まり時代背景と共に林業従業者が全国的に減少している。そのような背景があり長い間森林整備が実施されていなかった山が原因となつた甚大な土砂災害が発生している。様々な要因を解決するために森林環境譲与税は創設され、次世代により良い環境で引き継ぐために活用する税金と私は捉えている。この制度設計が続く限り必要不可欠なのは林業従業者の人材育成である。町の資源

を有効活用した移住支援の取組も必要ではないか。

答 県が実施している林業技術者育成研修と連携し林業従業者の効果的な移住支援策について検討する。

問 子育て世代に求められる中心市街地への誘導において、学校への距離は優先順位の高い位置にある。本計画と学校統廃合の案件は町の将来像を見据えたうえで密接した関係にある。

答 学校統廃合は市街化調整区域に住む児童・生徒も含めた町全体の課題である。

鎌倉街道上道の保存と活用は

保存活用計画を策定します



村田忠次郎

問 鎌倉街道上道の国指定史跡指定は、館職員の調査研究や保存整備の成果である。歴史的価値と具体的な取り組みを伺う。

答 の境界の一体的な空間が良好に保存され、中世の街道の状況を明らかにする重要な遺跡。遺跡の保存活用事業、調査研究、教育普及事業を実施した。歴史の道百選に選定された。

問 町民や児童生徒への啓発は。

答 街道や周辺の遺跡群をテーマにした特別展や発掘調査の速報展、現地見学会を実施。今後は、街道が保存されてきた経緯

や今後の保存活用の考え方の啓発事業を行っていききたい。学校教育との連携を更に深めたい。

問 鎌倉街道上道を町の発展にどう役立てるか。

答 文化財の観光資源としての活用、もう一つはコミュニティ醸成の為に、ボランティアアゲイドを養成しています。

問 鎌倉街道上道への関心や評価を継続させる為の方策は。

答 学校教育を通じての周知・啓発、資料館の社会教育、生涯学習の学びの場としての役割と文化観光の拠点としての機能を果たせたい。また、社会科副読

本にも掲載したい。

問 公園や緑地は少子化対策や高齢化対策のバロメーターだと考えます。公園管理にどのような配慮をしているか。

答 行政区の公園は、地域に、清掃や除草をお願いし町は遊具の点検や高木の伐採等行っております。

問 高齢化で、草刈等も負担が重いという声もあるが。

答 協働の方針は変えず、地域と相談をしながら実情に沿った支援を行います。



鎌倉街道上道・苦林宿付近を鎌倉に向かう武者一行の図



人材がいなければ荒廃した山は「よみがえらない」

補聴器購入時に助成制度の導入を

【問】国・県・近隣市町の動向を参考にしよう



千葉三津子

問 高齢者の難聴が認知症の要因であることが厚労省やWHOなど国内外で指摘されている。男女共に65歳を超えると難聴者の比率が高まるとされている。

答 しかし、日本の補聴器の普及が進まないのは高額な購入費の自己負担にあると思うが如何か。

問 高度・重度難聴により身体障害者手帳の交付を受けている場合は、障害者総合支援法に基づく補装具費支給制度で費用の一部または全部支給されている。
問 障害者総合支援法での給付対象者の区分と負担割合や支給の上限はあるのか何う。

答 聴覚障害6級以上の方が対象で補装具費支給制度で一部又は全部支給される。世帯の収入に応じて1か月の負担上限額が定められている。

問 厚生労働省の調査によると難聴の高齢者向けに補聴器購入の助成を行っている自治体もあると聞いている。国の「保険者機能強化推進交付金」を活用し財源を確保して支援を行っている自治体もある。また、補聴器の適切なタイミングでの利用が有効と考えるが如何か。

答 適切なタイミングで補聴器を装着し、難聴に適切に対処し

ていくことは、認知症予防や認知症発症を遅らせる可能性も高くなると考えられるので調査研究して参る。

問 障害者割引の際の利便性を考えるとデジタル障害者手帳として、活用できる「ミライロID」のアプリは有効と考える。民間のアプリだが、町も周知を図る必要があると思うが如何か。

答 広報やホームページ等で周知し、手帳の交換時や再発行時に案内するなど、「ミライロID」の利便性を紹介し周知して参る。

自治体DXの取り組みは

【問】今後も進めていく



平野 隆

問 町によるDX戦略は如何か。
答 現在本町独自の「DX推進計画」を策定中であり、総務省の定めた「自治体DX計画」に従い、6点の重点取り組み事項

への対応を進めると共に町独自の施策も実施していく予定。行政手続きのオンライン化やマイナンバーカードの普及促進、デジタルガバメントの観点から住民サービス向上の拡充、行政情報へのデジタル化を進めて参る。

問 当町のメタバースの取り組みは如何か。
答 近年では幾つかの先進自治体での活用が見られる。メタバ

ース上に観光資源を構築し、地域の魅力を国内外に発信し地域活性化に繋げることであり、町も研究して参る所存。

町の防災

問 水害対策は如何か。

答 ハザードマップ情報の住民への周知をはかり、水防訓練及び水防演習を実施している。

町内の道路

問 町民から寄せられる道路の苦情は如何か。

答 舗装に関して、ひび割れによる振動・騒音。側溝の蓋の破損や汚泥の堆積による水の流れの悪化や悪臭。雑草の繁茂。ま

た、大雨時の冠水など様々。

問 苦情に対する対応は。

答 公共性や安全性を考慮して、補修や修繕工事を順次実施している。

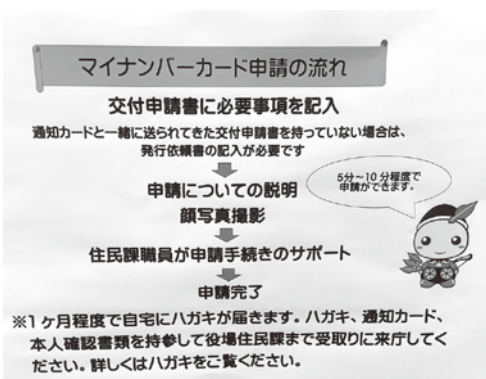
町の医療体制

問 新型コロナ第7波の影響により一般救急搬送に影響は出ているか。

答 熱中症患者が第7波のピークと重なることにより救急搬送に大きな影響が出ている。

問 当町の疾患の特徴は。

答 精神疾患、循環器系疾患、神経系の疾患など。



マイナンバーカードの推進



補聴器の普及で日常生活の維持を

こども医療費の助成の拡大を

【問】子育て支援の更なる支援となる



牧瀬 明

いるそうです。

毛呂山町も、若い世代を増やすために後に続いたらどうでしょうか。

【答】 本町のこども医療費の助成は必要に応じて対象年齢を拡大してきており、平成21年度から現在の15歳までを対象とする制度となりました。

【問】 厚生労働省の2020年の調査では通院659、入院715の自治体と、医療費助成実施市町村1741自治体のうち約4割が18歳までの助成を行なって

度から医療費の自己負担分窓口支払いを廃止し現在は、医科21機関、歯科18機関、調剤薬局25機関、合計64の医療機関において現物給付化を実施しており、子育て世帯の経済的負担や手続きの簡略化を図っております。これらの制度の運用は、地元医師会等のご理解とご協力の下、子育て世帯の保護者の方が安心して受診する環境が構築されており、当町のこども医療費の支給環境は、一定程度の水準にあるものと認識しております。

【問】 18歳まで延長した場合の医療費増額の見込は。

【答】 約1340万円と延長準備経費約29万円。



18歳まで医療費窓口支払いの支援を

都市計画等町の計画を早期に見直すべき

【問】課題を抽出しながら早急に見直しを検討する



佐藤 秀樹

【問】 未来応援奨学金返還支援事業を開始した。

【答】 都市計画マスタープランに対する現状と今後の政策。

【問】 毛呂山町が行うまちづくりに関する計画や事業は、都市計画マスタープランに沿って進めているが、頻発する豪雨災害などの対策を見据え河川改修や企業誘致、定住促進、バリアフリー、災害対策の実施を検討する。

【答】 町の人口減少の抑制には至っていない。今年度から新たに

【問】 近年想定外の豪雨による災害が発生している。そこで以前より被害にあわれている地区に対する対策を毛呂山町の政策の中において、早期に着手しなければならぬと思うが如何か。

【答】 以前より豪雨により被害を被っている東部地区においては、浸水想定区域などの災害の未然防止、防災対策の充実を都市計画マスタープランに明記している。ご指摘のとおり地区に対しての災害の対策を早急に図る。

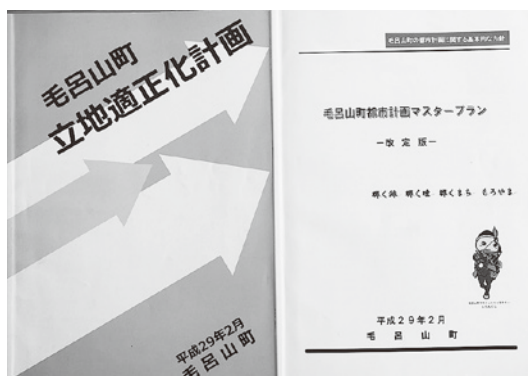
【問】 ロシア・ウクライナの戦争や各国における自然災害による物資供給の弊害、種の高騰など

【問】 食料危機はおこり得る。遊休農地を農業団地化していく考えを検討していく。

【答】 食料危機はおこり得る。遊休農地を農業団地化していく考えを検討していく。

【問】 すべての計画の整合性を求めるためにも都市計画マスタープランと立地適正化計画は、早急に見直し、修正が必要と思うが如何か。

【答】 ご指摘のとおり、これらの計画の見直しを勘案しつつ、課題を抽出しながら早急に見直しを検討する。



今こそ政策の見直しが必要

行政手続きのオンライン化で役場窓口の利便性の向上を

図 待たせない・書かせない・正確な窓口案内を目指す



荒木かおる

問 今回の補正予算に計上の「転出・転入手続き支援サービス及びかんたん窓口システム」の内容について伺う。

答 国が進めている「転出・転

入手続きのワンストップ化」に対応するもので、マイナンバーカード所有者に対しての優先的なシステム。「待たせない窓口」「正確な案内」「書かせない窓口」の実現を目指し住民サービスの向上につながるものと考えている。

問 住民が来庁せず行政手続きがオンライン上で出来ることが自治体DXの目指す姿。かんた

ん窓口システムのサービスのスタートはいつか。

答 「転出・転入手続きのワンストップ化」について、国は令和5年2月からのスタートを予定している。本町でも令和5年2月以降の運用となる。

問 高齢者の方などにはどのような対応をしていく考えか。

答 住民対象のスマートフォン講座を今年度も公民館の学習講座で予定しており、ゆずの里ケールテレビでも無料でスマートフォン講座を実施している。今後もあらゆる世代の方達に、町のDX推進が理解されるよう

推進していく。

問 岡本団地は毎回大雨被害に遭っている。応急的対応ではなく本整備の予定は。

答 新年度には本工事の着手に至るよう要望する。

問 西戸グラウンドの大雨被害と川のまるごと再生事業の関係はないか。

答 溢水被害との影響は調査・検証を待つが今後、河川の拡幅等の対策も必要。

問 認知症の方を支えるご家族への支援事業は。

答 「認知症介護者のつどい」を定期的開催。

川角駅整備事業 負担付き寄附議決の重みは

図 条例制定や予算議決等と同様非常に重い



高橋 達夫

問 3月議会でも質問したが川角駅整備事業の進捗状況は。

答 3月議会以降、3、4、5回の協議会を開催した。次の6回目で協議会としての修正の整

備方針を協議し、まとめていく。

問 今までの協議会で決まっている整備方針は。

答 川角駅既存改札口の維持、橋上駅舎および自由通路の整備、南北駅前広場やアクセス道路の整備等これまでの委員が協議した意見や要望である。

問 今の答弁には川角駅既存改札口の維持があるが、町は城西大学との協定を結び3億5千万

円の寄附を頂いている。その協定書第1条では駅舎の移設をうたっている。これはその協定と矛盾しているのではないか。

答 城西大学との協定は今も生きているが、協議会としての意見を出して頂きそれを最大限尊重し町の整備計画を出し、それにより協定の協議をしていく。

問 議会の議決の重み、協定の重みを町はどう考えているのか。

答 負担付き寄附の議決は条例の制定改廃、予算の議決と同様の権限として非常に重いものである。

町が訴えられた裁判について

問 裁判の現在の状況は

答 令和3年7月及び11月の原告から提出された執行停止の申し立ては令和4年4月付で裁判所から却下された。

問 却下とはどういうことか。

答 審議することなく退けるということで俗にいう門前払いということである。

問 訴状にある建設中の騒音、振動、建設後の交通渋滞等で町に住民から苦情は来ているのか。

答 現時点で住民からそのような苦情は来ていない。



早期の解決が望まれる川角駅周辺整備事業



各種手続きの簡素化を

度重なる集中豪雨による本町の浸水被害対策と道路冠水対策について

【答】 予見可能な場合は、事前に土嚢を設置する



神山 和之

ウンドのフェンス倒壊、各地区で法面崩落等の被害が発生した。

【問】 町の防災を担当する総務課長に聞くが、本町の住宅浸水、町道冠水は今回が初めてなのか。

【答】 被害は初めてではない。

【問】 今回の集中豪雨による本町の被害場所及び被害状況を伺う。

【答】 床上浸水5軒、床下15軒、事業所浸水被害2件、西大久保地内葛川8号橋損壊と西戸グラ

不可欠であると述べてきた。まちづくり整備課長は、緊急時迅速に浸水被害を把握し、土嚢等の応急対応行い安全確保に努めているとの答弁だが、岡本団地内この写真の何処に土嚢を設置し措置を講じたか伺う。

【答】 防災マップに記載されている浸水区域を重点に警戒する。

【問】 私の質問に対する答弁ではない。マスタープランにも、居住地の浸水など水害発生を防止するため河川・水路の改修を進め維持管理を適切に行うと記載されているが40年も改修がない。また水防団の指揮は町長、適切

な管理を求める。要望する。

水路管理担当の産業振興課長、台風通過後に土嚢置いても意味がない。町の振興計画は自然災害から住民の生命、財産を守ることは公共団体の最大の使命と記載がある。私も役場生活環境課に在職当時、スズメ蜂が大量に発生し町民、登下校の子供の命を脅かす危険があり、学校及び個人宅を駆除した事がある。町民を守る職員の使命は、今も昔も同じだ。事前対策を伺う。

【答】 事前に土嚢設置する。



土嚢等の設置がなく、再び15世帯が床上・床下浸水した岡本団地

高齢者に自転車用ヘルメットを

【答】 先進導入自治体を参考に検討する



澤田 巖

【問】 埼玉県内における交通事故の状況は。

【答】 令和3年の県内事故件数は人身事故数1万6707人で408人減少、昭和42年以来最少

【問】 発生件数。交通事故による死者数は118人で前年より3人減少。しかし65歳以上の高齢者の交通事故死者数は72人で前年より11人増加、交通事故死亡者の6割以上が高齢者である。

【問】 高齢者の死亡事故が多い理由は何が考えられるのか。

【答】 埼玉県警察の統計では令和3年に交通事故により死亡された高齢者59人中、82%が歩行中、

自転車乗車中に発生している。自転車乗車中の8割以上で一時間停止や交差点安全進行などの何らかの違反が認められ、頭部損傷などで命を落とす場合が7割を越えている。

【問】 自転車乗車用ヘルメット着用に関する規定はあるのか。

【答】 道路交通法第63条の11など努力義務がある。埼玉県自転車の安全な利用の促進に関する条例第9条の2、高齢者の家族は、その高齢者に対して、乗車用ヘルメットの着用や交通安全対策について助言するように努めなければならないとある。

【問】 ヘルメット着用率向上に広報やホームページでの周知だけでは着用率につながらないと考える。補助金制度の創設などはどうか。

【答】 埼玉県内で高齢者対象自転車用ヘルメット購入補助金制度を導入している市町は5市町。近隣では坂戸市と日高市で購入補助金制度を導入している。頭部損傷で命を落とす高齢者が多く、その対策としてヘルメットの効果は高いことは認識しており、先進導入自治体を参考に導入を検討する。



家族が家族を守る助言が大切

学校統廃合を再検討、再度アンケートを！

図 小中学生には、そぐわない



岡野 勉

問 町は、小中一貫校を時期も含め再検討する事を決めた。小中学校のあり方検討委員会では、再度アンケートを取っていたんだけど。コロナ禍の前後では大

きく環境が変わり、対象者は教職員、児童生徒を含めたもの。
答 小中学生にアンケートを実施し、その結果を根拠に政策に反映することは判断能力が未熟な恐れのある小中学生には負担があるものと考え対象者としてはそぐわないと考えます。教職員は、校長を中心に一体となった対応を求めたい。
問 アンケートを取らない。

これは、町の逃げの口実ではないか！子どもの権利条約には、「子どもたち本人に関わる重要な案件に対して、意見を表明する機会を与える」とある。

町への回答は、子どもの意見を奪うことだ。町、大人が責任を取れば良い、町は逃げるな。

答 現状の的確な情報を周知して、慎重に対応したい。

葛川8号橋の早期実現を！

問 葛川の護岸の傷みが激しい寿命だ。住民には橋が崩落したショックは大きい。8号橋の架け替えの概要をお聞きする。
答 仮設橋の工期は今年12月か

ら、工事費は約314万円、強度は車、トラクターの走行など問題ない。

問 県は葛川の改修は「川の下から」とこだわっている。これでは毎年豪雨に見舞われる西大久保葛川団地は毎年被害を受ける。対策は市場の県道から葛川団地の護岸かさ上げだ。町は県に強く川上だろうと被害を未然に防ぐ、対策を講じるよう要望を伝えていただきたい。
答 今回の被害を総括し、必要に応じた具体的対策を早期に要望して行く。

消防団第1・第5分団車庫の今後の方策は

図 更新や機能移転を含め検討



小峰 明雄

問 新耐震基準を満たしていない消防団第1分団車庫の近隣への移設や建て替えは。
答 全庁的な取組み体制を構築した上で検討してまいりたい。

問 西大久保市内の交差点改良事業の残地に消防団第5分団車庫や駐車場として有効活用は。
答 関係各課と連携して検討。
問 郷土を理解する教育の推進で鎌倉街道上道による啓発事業。
答 学習内容のひとつとして、取り上げるべきと認識している。
問 平成30年第3回・令和元年第3回の議会で一般質問した小中学校の歯・口の健康づくりは。

答 むし歯の治療率は令和3年度は前年度と比較して低下した。
問 保育所では、小さな命を預かる職員の、心労を思うとへパフィルター付の空気清浄機を増やす事も必要、ご見解は。
答 条件が整えば、購入を検討。
問 消防団員への町独自での、子育て支援策、ご見解は。
答 消防団員の労苦に報いる為の処遇改善の一助になる。
問 障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が5月25日施行、ご見解は。
答 情報の取得・利用や意志疎通に係る施策の推進に努める。

問 障害者計画の情報アクセシビリティの向上の各施策の取組み状況は。
答 朗読ボランティア花あかりの協力により声の広報もろやまを作成して配布。
問 大谷木地区町道123号線の雨水対策として暗渠管の抜本的な対策工事を。
答 被害の軽減に向けて、早急に対応して参りたい。
問 豪雨による河川溢水の度に復旧工事を行っており、治水能力の向上が図れるように、県に要望を行う。



消防団第1・第5分団車庫の早期整備を切望する



第1回(7月28日)学校のあり方検討委員会がスタート！

全員協議会

執行部から説明を受けました
— 主な協議内容 —

1回目接種	28,285人	84.51%	国82.20% 県83.26%
2回目接種	28,179人	84.19%	国81.07% 県82.08%
3回目接種	23,098人	69.01%	国64.34% 県65.19%
4回目接種	9,291人	27.76%	国20.98% 県20.27%

・毛呂山町におけるワクチン接種数 8月30日現在

◎新型コロナウイルス ワクチン接種の状況

表彰

坂戸地区衛生組合
組合議員14年有効表彰

小峰 明雄 議員

人事

教育委員会委員

丸木 清之 氏
昭和46年生

◎毛呂山町福祉会館の指定 管理者制度導入を実施

民間活力の導入と効率的な
施設運営を目的に指定管理者
の導入
〈指定期間〉
令和5年4月1日～
令和8年3月31日

◎開発許可処分取消訴訟 等について

原告から再度提出された執
行停止の申立てに対して却下
された等の説明

◎大雨による被害状況

- ・7月12日、毛呂山町付近で
1時間あたり約120ミリの
雨量を観測
- ・避難所を開設
- 総合公園体育館
- 福祉会館・中央公民館
- 避難者
- 総合公園避難者 0人
- 福祉会館避難者 3人
- 中央公民館避難者 9人
- 7月13日 避難所閉鎖

◎学校給食費の改定について

(月額)

	改訂前	改定後	増額
小学校	4,160円	4,370円	210円
中学校	5,000円	5,250円	250円

・食材費の高騰が続き食材の調達が困難になっており、
必要な栄養価を確保するために令和4年9月分から改定
※ただし今年度中は学校給食費無償化を継続

傍聴席

9月定例会傍聴者数	
本会議日	傍聴者数
9月 1日(木)	1名
9月 2日(金)	24名
9月 5日(月)	18名
9月 6日(火)	21名
9月 7日(水)	8名
9月20日(火)	0名
合計	72名

あしがき

人生100年時代と呼ばれる
今、健康寿命の延伸は大きなテ
ーマとなっています。高齢者の
介護が必要となった主な原因は
認知症や脳血管疾患等に続き骨
折・転倒が多く、転倒事故の6
割は住み慣れた自宅で発生して
いるそうです。加齢に伴い、身
体能力が徐々に低下することは
避けられません。新型コロナで
休止していたゆずっこ元気体操
も徐々に再開しています。

自分の足で歩き続けるために
日ごろから可能な限り体を動か
し、機能維持に努め健やかに過
ごしていきたいですね。

荒木かおる

編集委員

委員長 千葉三津子
副委員長 澤田 巖
委員 下田 泰章
平野 隆
佐藤 秀樹
荒木かおる

アドバイザー

(議長) 小峰 明雄